

滋賀県立農業大学校シラバス 701

講座名	畜産総論	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

家畜の定義、人間と家畜の関係、農業における畜産の位置づけ、歴史を学び畜産を産業として理解する。また、畜産が抱える課題や環境に配慮した農業の考え方を学ぶことにより畜産の将来を考える力を養う。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回(4時間)	畜産の歴史ととりまく情勢
第2回(4時間)	耕畜連携の現状と課題
第3回(4時間)	畜産環境保全（ふん尿処理とたい肥流通）
第4回(4時間)	畜産の持続的な生産にむけた地球温暖化対策

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農学基礎セミナー「新版 家畜飼育の基礎」
- 家畜人工授精講習会テキスト

到達目標

- 家畜の定義、人間と家畜の関係、農業における畜産の位置づけ、歴史を踏まえ、畜産を産業として理解している。
- 畜産が抱える課題や環境に配慮した農業の考え方を理解し、畜産の将来を考える力が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 702

講座名	飼養管理 I	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	--------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

乳用牛、肉用牛、豚および鶏の生理機能を学び、生理機能を十分に発揮させることができる飼養管理とはどのようなものか考えるための知識を習得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	孵化・育雛技術および種鶏の飼養管理技術 採卵鶏および近江しゃもの飼養管理技術
第2回（4時間）	子豚の飼養管理技術および繁殖豚の繁殖管理技術 子牛の初乳給与および哺育育成管理技術
第3回（4時間）	乳用牛の飼養管理技術 乳用牛の分娩前後における管理技術
第4回（4時間）	繁殖和牛の飼養管理技術 肥育牛の飼養管理技術

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農学基礎セミナー「新版 家畜飼育の基礎」
- 家畜飼養管理ハンドブック
- 家畜人工授精講習会テキスト

到達目標

○ 乳用牛、肉用牛、豚および鶏の生理機能について理解でき、その機能を発揮させることができる飼養管理技術が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 703

講座名	飼養管理Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
飼養管理Ⅰで学んだ事項を発展させ、畜産新技術や家畜の快適性に配慮した飼養管理知識を習得する。

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	畜舎環境改善による飼養管理技術
第２回（４時間）	アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理技術
第３回（４時間）	畜産GAPによる飼養管理技術
第４回（４時間）	畜産におけるスマート農業
第５回（４時間）	
第６回（４時間）	
第７回（４時間）	
第８回（４時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
○農学基礎セミナー「新版 家畜飼養の基礎」 ○家畜人工授精講習会テキスト

到達目標
○畜産の新技術や家畜の快適性に配慮した飼養管理知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 704

講座名	家畜育種	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

家畜の改良の意義および家畜改良増殖目標を理解するため、遺伝学を基礎とした育種学の知識を習得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	家畜の遺伝および育種の原理
第2回（4時間）	家畜改良増殖目標
第3回（4時間）	乳用牛の改良（選抜、交配および能力検定）、和牛の改良（選抜、交配および能力検定）
第4回（4時間）	豚、鶏およびその他家畜の改良
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農学基礎セミナー「新版 家畜飼育の基礎」
- 家畜人工授精講習会テキスト

到達目標

- 遺伝学を基礎とした家畜育種の手法が理解できている。
- 家畜改良増殖目標に基づいた家畜改良の知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 705

講座名	家畜栄養	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
家畜の飼養管理の最も基本となる栄養および消化を学ぶ。家畜及び飼料別の栄養特性を理解し、生産性を高めるための合理的な家畜の飼料給与方法を習得する。

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	栄養素の消化と吸収　粗飼料と濃厚飼料の栄養特性
第２回（４時間）	牛のルーメン機能および消化生理　豚および鶏の消化生理
第３回（４時間）	飼料設計のための飼料計算法　ＢＣＳ等を活用した家畜の栄養状態の把握
第４回（４時間）	家畜の栄養が生産性に及ぼす影響および栄養障害
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○農学基礎セミナー「新版　家畜飼育の基礎」	
○家畜絵飼養管理ハンドブック	
○家畜人工授精講習会テキスト	

到達目標
○家畜の飼養管理の最も基本となる栄養および消化知識が理解できている。
○家畜および飼料別の栄養特性を理解し、生産性を高めるための合理的な家畜の飼料給与方法の知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 706

講座名	家畜繁殖	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

受精から分娩または産卵までの経過、生殖器の構造および機能、精子・卵子の構造及び役割、繁殖機能に係るホルモンおよび作用、繁殖の周期性と生殖器および行動の変化、精子生理、種付け理論

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	生殖器解剖とホルモンと作用機序
第2回（4時間）	雌の繁殖生理
第3回（4時間）	雄の繁殖生理
第4回（4時間）	妊娠・分娩および人工授精技術
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○家畜人工授精講習会テキスト（家畜人工授精編）
出版：一般社団法人日本家畜人工授精師協会

到達目標

家畜の飼養管理の最も重要な項目である繁殖に関する生理を学ぶ。この科目は、家畜人工授精師の資格講習会で再度詳しく履修するが、その前段階として概要の把握が必要であり、資格講習会の講義で容易に理解できるレベルまで学ぶ。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 707

講座名	家畜衛生	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

現在、家畜および生産物の流通が世界的に広がっており、家畜伝染病が広域に伝染する危険性を持っている。家畜伝染病および予防のための処置・管理の知識と危機管理を学ぶ。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	家畜の防疫体制の現状と口蹄疫の防疫対策
第2回（4時間）	豚熱および高病原性鳥インフルエンザの防疫対策
第3回（4時間）	飼養衛生管理基準の遵守 畜舎消毒と害虫対策
第4回（4時間）	農場HACCPによる衛生管理

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農学基礎セミナー「新版 家畜飼育の基礎」
- 家畜衛生をめぐる情勢について（農林水産省）

到達目標

○家畜伝染病および予防のための管理・処置の知識と危機管理が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 708

講座名	家畜解剖	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習 ☐ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

家畜・家きんの正常な体の形態および構造を学び、家畜別の機能の特性を習得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	家畜・家きんの外貌および体型
第2回（4時間）	家畜・家きんの骨格・筋肉の形態および構造
第3回（4時間）	家畜・家きんの生殖器の形態および構造
第4回（4時間）	家畜・家きんの消化器の形態および構造
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 家畜比較解剖図説（上・下）
- 家畜の解剖と生理

到達目標

家畜を飼育するにあたって、必要な家畜の解剖学的知識を習得する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 709

講座名	生物工学	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1 年 2 年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1 単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

胚移植総論、胚の生理と形態、過剰排卵処理と胚の採取・移植、胚操作、胚移植技術の今後の展望

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	胚移植総論、胚の生理および形態
第2回（4時間）	過剰排卵処理と胚の採取
第3回（4時間）	胚の凍結・移植
第4回（4時間）	家畜胚移植技術の今後の展望
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○家畜人工授精講習会テキスト（家畜体内受精卵・家畜体外受精卵移植編）

到達目標

近年生物工学の発達は見張るものがあり、日に日に進歩している。そのうち、牛の胚生産・移植に関する技術に関する基礎的事項を身につけ、将来の畜産技術の進展に対して、柔軟な対応ができるようになる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 710

講座名	飼料作物Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 飼料作物の種類と特徴
2. 作業体系と作業機械の種類
3. サイレージの品質評価
4. 家畜ふんの堆肥化技術
5. 飼料作物の主要な病虫害と難防除雑草の種類と防除法

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	飼料作物の種類と特徴
第2回（4時間）	作業体系と作業機械の種類
第3回（4時間）	サイレージ調製の理論、種類および特徴、家畜ふんの堆肥化技術
第4回（4時間）	品質評価、飼料作物の主要な病虫害と難防除雑草の種類と防除法

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 草地管理指標（日本草地畜産種子協会）
- 家畜ふん尿の基礎知識（自作）

到達目標

飼料作物に関する基礎的な知識を習得する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 711

講座名	飼料作物Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	-------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 自給飼料の現状と課題
2. 飼料用稲の生産技術と経営
3. エコフィードの取り組み

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	自給飼料の情勢と滋賀県の状況
第2回（4時間）	飼料用稲（稲WCS）の生産技術
第3回（4時間）	飼料用稲（飼料用米）の生産技術
第4回（4時間）	飼料用稲（飼料用米・稲WCS）の生産・給与における経営比較・エコフィードの取り組み

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 自給飼料をめぐる情勢（農林水産省）
- 滋賀の畜産（滋賀県）
- 稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル（日本草地畜産種子協会）
- 飼料用米の生産・給与技術マニュアル（農研機構）
- 稲WCS利用技術マニュアル（滋賀県飼料自給率向上戦略会議）
- 自作資料（飼料用米・稲WCS生産における収支計算シート）

到達目標

自給飼料を取り巻く情勢から自給飼料の必要性を感じるとともに、水田を活用した自給飼料である飼料用イネ（飼料用米・稲WCS）の生産技術の基礎を習得する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト
- 出欠状況
- 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 712

講座名	畜産経営	担当	県農業技術職員	実務経験	有 無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1 年 2 年 就農		
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1 単位）		
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学				

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 畜産経営とは | 2. 経営の目標と収益性 |
| 3. 酪農経営 | 4. 肉用牛経営 |
| 5. 養豚経営 | 6. 採卵鶏・肉用鶏経営 |
| 7. 記帳と経営分析 | 8. 経営改善計画策定 |

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	酪農経営の概要（経営の特徴、現状と課題、経営改善）
第2回（4時間）	肉牛経営の概要（経営の特徴、現状と課題、経営改善）
第3回（4時間）	養豚経営の概要（経営の特徴、現状と課題、経営改善）
第4回（4時間）	養鶏経営の概要（経営の特徴、現状と課題、経営改善）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農業経営ハンドブック（滋賀県）
- 農業経営技術指標（一般社団法人畜産振興協会）
- 畜産経営自己診断の手順と手法
- 知識ゼロからの畜産入門（家の光協会）
- 自作資料（畜産経営とは）他

到達目標

- 畜産経営の概要を理解し、基礎的な知識が身についている。
- 酪農、肉牛、養豚、養鶏経営の特徴を理解し、知識が身についている。
- 畜産経営の現状と課題を整理し、自ら改善策を立てられる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 713

講座名	畜産物流通	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	-------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

生産物がどのようにして消費者に届けられるかを学び、消費者に受け入れられる畜産物を生産するための基礎知識を習得する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	牛のトレサビリティ制度
第2回（4時間）	枝肉の取引規格（牛肉・豚肉）
第3回（4時間）	鶏卵・鶏肉の流通
第4回（4時間）	牛乳・乳製品の流通
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農学基礎セミナー「新版 家畜飼育の基礎」
- 家畜人工授精講習会テキスト

到達目標

- 生産物がどのようにして消費者に届けられるか理解できている。
- 消費者に受け入れられる畜産物を生産するための基礎知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 714

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	1年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに、発表討議を行う。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入 なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○ 授業態度 ○ 出席日数

評価基準
本講座は、演習科目であることから、評価は、成果物、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 715

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	2年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに、技術・経営について検討を加え、発表力の向上を図る。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、演習科目であることから、評価は、成果物、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 716

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	448時間（14単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培や家畜飼養管理の基本技術を習得するとともに、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第1～112回 （448時間）	１年次において、自身が定めた専攻で、農作物や家畜飼養管理の基本技術を習得する。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○ 授業態度 ○ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 717

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	544時間（17単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培や家畜飼養管理の基本技術を習得するとともに、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第1～136回 （544時間）	2 年次において、自らの経営計画に基づくプロジェクトの実施および取りまとめを行う。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入 なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○授業態度 ○出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 718

講座名	卒業論文	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	160時間（5単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ① プロジェクトの内容の検討と課題の決定
- ② 課題解決し、プロジェクトとしてとりまとめる
- ③ 報告会での発表と論文として発刊する

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1～40回 (160時間)	内容の検討、課題の決定、とりまとめと発表

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
なし

到達目標

課題解決に向けた取り組みを分かりやすく発表することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○ 授業態度 ○ 出席日数

評価基準

本講座は、演習科目であることから、評価は、成果物、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。